

東山円筒分水槽

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：富山県魚津市東山地内 竣工年：1954（昭和29）年
管理者：魚津市土地改良区

認定理由：永年水不足に悩まれてきた片貝川流域へ合理的かつ公平に分水するため
川を潜るサイフォン終端に設けられた美しい円形の分水施設である。

令和3年度登録



水を分配する東山円筒分水槽の風景。設計は須山隆二氏とされる。

片貝川沿岸の約 1800 ha の耕地は、極めて大きい河川勾配をもつ上に浸透損失流量が多く、度々干ばつ被害が発生していた。この問題を解決するため、1950（昭和25）年度から5年をかけて県営片貝川沿岸用水合口事業が実施された。その一環として1954（昭和29）年に水量を公平に分配する円筒分水槽が構築された。

円筒分水槽とは、各用水路の面積割を円周長で比例分水することで、上流からの水量の変化に影響されことなく公平に水を分配することができる施設である。戦前からの民主運動にはじまり、戦時中の一時中断を経た悲願の事業であった。施工後50年を経過した現在でも、何ら支障なく安定した用水の供給に貢献している。

東山円筒分水槽の施工延長は72.0m、直径9.12mの円鋭堰、高さ2.8m、東山用水・青柳用水・天神野用水に分配される。片貝川右岸側にあり、左岸側の貝田新より延長163.2mの逆サイフォンで横断し、さらに水路トンネルで接続されている。

東山円筒分水槽の風景は、「日本一美しい分水路」として多くの人々に親しまれている。

